



水の学校

武蔵野市 水環境連続講座

News Letter 24

2018年1月発行
発行元：「水の学校」事務局
tel：0422-60-1914
http://www.city.musashino.lg.jp

facebook「武蔵野 水の学校」
最新情報配信中！

武蔵野市水環境連続講座「水の学校」2017 とは？

「水の学校」は、市民のみなさんといっしょに、水を知り、考える連続講座です。くらしの中の身近な水循環、下水道の役割や、水に親しみ水を楽しむ知恵、そして世界規模の水課題、地球規模の水循環まで、水を取りまくさまざまなテーマを取りあげ、楽しみながら考えを深め、行動へつなげます。2014年度からスタートし、4年目を迎えました。

連続講座レポート

第4回 雨のめぐりから考える、武蔵野台地の地形・湧水・川 ～仙川・野川と国分寺崖線

10月14日、水の学校第4回講座を行いました。まず市内の桜堤公園に向かい、「仙川リメイク」として自然護岸の親水整備を行った仙川上流部を見学した後、バスで移動し国分寺湧水群のあるお鷹の道とその周辺の湧水群を見学しました。次に、調布市の野川公園の湧水広場、自然観察園内を見学しました。さらに深大寺へ移動し、水の湧く様子やその湧水がつくる池の様子を観察しました。

今回は、水の学校4年目にして初めての雨の中での講座。今回同行してくださった神谷講師から「雨だからこそその発見がある！」と受講生を盛り上げていただきました。



武蔵国分寺公園

レポーター：水の学校サポーター 市川さん

昨年は東山道武蔵路からスタートして武蔵国分寺跡に登っていく行程でした。今年は、同じ場所でも逆方向に国分寺跡から下りながらの見学ルートだったので視界が広がり地形の高低差が大変よくわかりました。

参加者の中にこの地域の遺跡発掘調査に参加された方がいらしていました。ご本人が発掘された10枚組のお皿を始め沢山の出土品があったと伺いました。この地域がとても栄えていたことがわかります。

深大寺

レポーター：水の学校サポーター 幸田さん

去年と時期が同じで、天候も1年前と同じでも湧き水の風景がガラッと変わっていました。

先生の解説を聞きながら実地踏査をすると、変化や見逃しがちなポイントも理解が深まります。

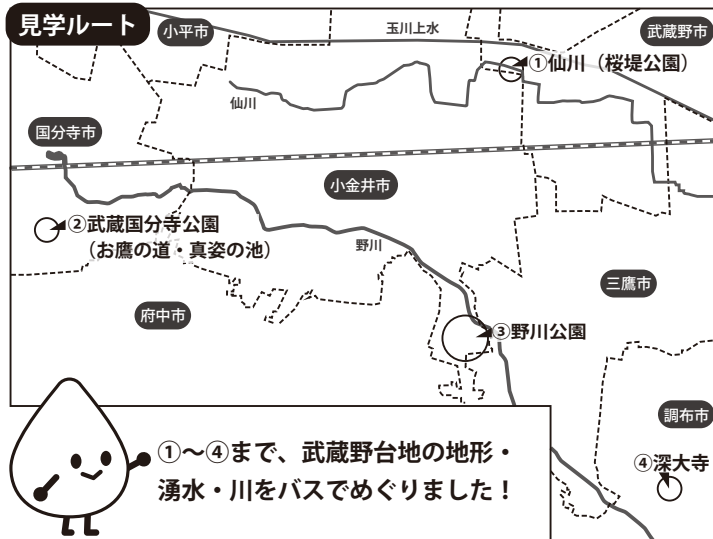
野川公園

レポーター：水の学校サポーター 原田さん

今回の講座の内容は、武蔵野台地の地形に係る湧水、川を自分の眼で確かめる事であり、テーマの中で私が特に関心を持ったのは、野川公園内の一施設である貯留浸透施設です。近年ゲリラ豪雨が発生しているが、広大な公園内に降った雨水は想像を超える水量である。この雨水が野川に直接流入すれば、野川は氾濫の危険に陥る。この非常事態を少しでも回避するように作られた施設が「見えない貯水池」です。雨水を導水管により貯留浸透施設に入れる。雨がやむと雨水は、ゆっくり時間をかけ地下にしみこみ、やがて雨水は無くなります。このことから「見えない貯水池」と呼ばれている。受講生から実物はどこに設置されているのか？と聞かれましたが、本体の大部分が地下に有り良く見えないのです。まさに「見えない貯水池」でした。残念。しかし今回の講座は大変有意義な講座でした。



深大寺の湧水池を散策



①～④まで、武蔵野台地の地形・湧水・川をバスでめぐりました！

振り返りワークショップ

レポーター：水の学校サポーター K・Fさん

バス研修後は市役所へ戻って、早速全員参加の野外研修振り返りワークショップを行いました。内容は見学先別に5つの島を作り（①仙川②国分寺③野川④深大寺⑤湧水）をして、4期受講生・参加者は全島を巡り、コメントを書き残していきます。

各島には常駐サポーターがいて、コメントをまとめ、振り返りの結果報告をしました。短時間に効率よく、野外体験を集約できたことは素晴らしい成果だと思います。

最後に、神谷講師からバス研修そしてワークショップと丸一日ご指導いただき、更に、「水の歴史」の大切さを教わりました。身近なところをより深く、丁寧に解説して頂き、本当にありがとうございました。そして又、水の学校の運営担当者及び関係者に心より感謝申し上げます。

受講生の声より

- 武蔵野市を取りまく水環境を広く見ることができた1にちでした。水環境の理解がさらに深まりました。
- 昔の人も現代の人も湧水のありがたさを感じて生活していると思った。
- 雨の日で良かった。



水コラム no.23: 東京の湧水めぐり (水の学校サポーター草木さん)

「水の学校」の受講がきっかけで、湧水に興味を持つようになりました。東京都には今も六百を超える地点に湧水があるそうです。そのうち、57箇所が「東京の名湧水57選」に選定（平成15年）されていることも知りました。私有地も多く、全てが見られる訳ではありませんが、三年間で百箇所を超える湧水を訪ねました。都心近くから八王子市まで、広い範囲に足を延ばしました。訪ねた時期によるかも知れませんが、23区内では赤羽自然観察園（北区）、清水山憩いの森（練馬区）や岡本静嘉堂緑地周辺（世田谷区）の湧水量が多かったです。多摩地区では、お鷹の道・真姿の池湧水群（国分寺市）、ママ下湧水群（国立市）、黒川清流公園（日野市）、南沢緑地周辺（東久留米市）、二宮神社や八雲神社（あきる野市）、子安神社（八王子市）などの湧水量が豊富でした。

しかし年々都市化や宅地化が進む中で、随所で湧出量は減少しているようです。「東京の名湧水57選」に選ばれた湧水の中にも、枯渇寸前に追い込まれたものもあります。それでも、子安神社のように、湧水路に設けられた洗い場が現役で活躍している所もあります。また、穴澤天神社（稲城市）のように、水を汲みに訪れる人が絶えない湧水もあります。近隣の人たちが水辺に集まり、湧水が生活の一部になっています。黒川清流公園や金山調節池（清瀬市）などでは、湧水路や河川周辺の清掃・保全活動にも出くわしました。話を伺うと、近隣住民がボランティアで参加しているのだそうです。湧水の景観を支える人たちの善意に触れ、ホッとした気分になりました。

私は水の学校を修了した有志の皆さんと「湧遊会」という親睦グループをつくり、都内の湧水めぐりをしています。興味のある方は、ぜひ声をかけて下さい。 水路の洗い場で野菜を洗う皆さん（八王子市、子安神社）



10/21
(土)

ステップアップ講座 レポート

世田谷区・国分寺崖線の湧水めぐり

企画：水の学校サポーター有志

対象：水の学校連続講座受講生、修了生（サポーター）

レポーター：水の学校サポーター K・Yさん

第4回講座で訪れた野川・仙川は、川の中でも上流部にあたります。少し下流の、サポーター有志おすすめの見どころをめぐり、知識を深めました。

大蔵三丁目公園を出発し、国分寺崖線から湧き出る流れ沿いに進み、東名高速の高架下辺りから仙川沿いを歩く。途中「礫間接触酸化法」（河床の石についた微生物の働きで水を浄化する）という浄化施設がある。水再生センター見学で学んだがここでも微生物が活躍している。水神橋から仙川と別れ開渠になった丸子川沿いに岡本公園へ向かう。民家園、ユーミンの夫妻奉納の石灯籠を見て静嘉堂緑地を散策。樹木に覆われた庭園、湧水の水音。都心とは思えない風景だ。庭園東側を流れる谷戸川と丸子川がここで合流する。鎌田橋で滝のように野川に流れ込む仙川を見る。凄い水量、圧巻だ。バスで二子多摩ライズの屋上に向かい、国分寺から世田谷までの崖線が一目で見えるマップを見学した。草木氏のユーモアに富んだ説明を聞きながら楽しい見学会だった。



仙川沿いを散策